

2 0 0 5 年 1 月 1 3 日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-3664-5697

中国携帯電話機市場調査を実施

2 0 0 4 年メーカー別ではNOKIAがシェアのトップを奪還

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、2005年後半に第三代携帯電話機の商用サービス開始が見込まれ、さらに活発な動きを見せる中国携帯電話市場についての調査を実施した。その結果を調査報告書「2004年 中国携帯電話機市場の展望」にまとめた。

<調査結果の概要>

中国携帯電話加入者総数 対象：GSM、GPRS、CDMA、CDMA-1X、3G
2004年(見込み) 3億4,300万人 2005年(予測) 3億9,000万人
中国携帯電話機生産台数
2004年(見込み) 2億1,500万台 2005年(予測) 2億4,000万台

1. 携帯電話機国内出荷台数

2004年(見込み) 1億800万台 2005年予測 1億1,200万台(2004年比 104%)

2004年、中国ではGPRS機能の携帯電話機(デュアルモード機を含む)が8,660万台と80%のウェイトを占めている。2005年は9,600万台と好調に推移すると予測される。GSM単体携帯電話機の需要は価格ダウンにより減少していく。中国聯通が、CDMAネットワークを全てCDMA-1Xへとグレードアップさせたため、CDMA-1Xは、2004年の250万台から2005年には350万台になると予測される。また、2005年は3G携帯電話機の量産開始が見込まれる。

2. ディスプレイ方式別国内市場

2004年(見込み)

カラーディスプレイ携帯電話機 7,750万台 モノクロディスプレイ携帯電話機 3,050万台

2005年(予測)

カラーディスプレイ携帯電話機 9,980万台 モノクロディスプレイ携帯電話機 1,220万台

現在の携帯電話機用カラーパネルは、主にCSTN、TFT、OLEDとなっている。市場はカラーディスプレイ方式携帯電話に全面的に入れ替わっていくと考えられる。CSTNは低価格であり市場では優位な立場にあったが、携帯電話の高機能化に対応できず、消費者のニーズを満たす事ができないため、今後はコントラスト比が高く、色が鮮やかで反応スピードが速いTFTとOLEDが主流になると予測される。

3. カメラ付携帯電話機国内市場

2004年(見込み) 2,110万台 2005年(予測) 3,520万台(2004年比 167%)

中国では、MOTOROLA、NOKIA、SAMSUNG、SONY-ERICSSON、LG、NEC、SIEMENS、夏新、波導、TCLなどのメーカーが100万画素のカメラ付携帯電話機を発売している。SAMSUNGとLGはそれぞれ300万画素の携帯電話機も発売している。中国メーカーも負けてはならず、夏新が国産初の100万画素携帯電話機を発表した。またTCLが300万画素の携帯電話機を発売するなど、各社が続々と200万画素、300万画素の携帯電話機を発売していく予定である。

4. メーカー別市場シェア

(1) 外資・国内メーカー別

外資メーカー 2004年(見込み) 5,630万台 2005年(予測) 6,180万台

中国メーカー 2004年(見込み) 5,170万台 2005年(予測) 5,020万台

中国メーカーの市場シェアは減少している。外資メーカーが2004年に積極的に販売ルートを改善し、大規模な価格訴求を打ち出しているのに対し、中国メーカーは有効な措置を取れなかったためである。その他、在庫の増加、資金不足などで国内メーカーの市場シェアは減少した。2004年上半期だけで、外資メーカーは国内の市場における新製品の35%を占める52種の新製品を発表し、2003年と比較し15%ウエイトを高めた。外資メーカーはハイエンド製品、ファッショナブルでローエンドの製品の販売促進にも力を入れ、その市場シェアを増大させている。

(2) メーカー別市場シェア(2004年見込み)

1位 NOKIA 2位 MOTOROLA 3位 BIRD

2004年NOKIAがBIRDを抜いて市場トップに返り咲いた。NOKIAは2004年に中国市場の開拓に力をいれ、5月に大幅な価格訴求を行った事が要因と考えられる。2005年も外資系メーカーが上位を占める攻勢が続くであろう。2004年国内販売トップの「NOKIA」は12%、以下、「MOTOROLA」11%、「BIRD」10%、「SAMSUNG」8%と続く。日系メーカーは、Sony-Ericssonが11位、Panasonicが14位と苦戦している。

5. PHS市場

販売台数 2004年(見込み) 3,800万台 2005年(予測) 2,800万台

生産台数 2004年(見込み) 3,900万台 2005年(予測) 3,000万台

2004年は国内PHS市場の転換期にあたる。国内の多くの都市は既にPHS業務を開始しており、3G携帯時代の到来にあたり大手メーカーは技術の向上とサービスの質の向上を重要視している。2004年は、3G営業許可証がまだ発行されておらず、国内移動体通信費も十分下がってはいない。今でもPHSの携帯電話機能は市内電話に近くユーザーにとって魅力的となっている。

調査対象

調査対象	内容
携帯電話事業者	中国移动通信、中国聯合通信、中国电信、中国网通
携帯電話機	GSM、GPRS、CDMA、CDMA1X、第三代(WCDMA、CDMA2000、TD-SCDMA) 外資企業、国内企業
携帯電話設備	基地局、携帯電話設備
携帯電話サービス	サービス・プロバイダ、コンテンツ・プロバイダ
その他移動通信	PHS、無線LAN
主要都市市場	北京

調査期間 2004年9月～11月

調査方法 関係各機関の統計、推定をもとに、中聯富士経済咨询有限公司調査員による主要企業への取材

中聯富士経済咨询有限公司

設立 平成6年(1994年)1月1日

所在地 中国北京市東城区東長安街33号(北京飯店6301号室) 電話:86-106(522)2966 FAX:86-106(522)0145

資料タイトル:「2004年 中国携帯電話機市場の展望」

体裁 : A4判 240頁

価格 : 100,000円(税込み 105,000円)

PDF印刷可能ファイル、レポート購入者に限り別売り(税込み 10,500円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 海外開発グループ

TEL:03-3664-5821 FAX:03-366-9514

発行所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL 03-3664-5811(代) FAX 03-3661-6903 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>